明るいニュース

一般社団法人
日本善行会
〒100－0006
東京都千代田区有楽町
2-10-1 東京交通会館内
TEL (03)3212－6996
FAX (03)3212－6998
URL:http//www.zenkoukai.or.jp
メール :info@zenkoukai.or.jp

毎月1日発行
編集発行人　相澤　克也

善行は、社会を照らすともしび。

コロナ禍で問われる善行のあり方

一般社団法人 日本善行会　副会長　山下 純雲子

「二〇二〇東京オリンピック・パラリンピック」に大きな期待と夢を抱いて新年を迎えたのはつい半年前の事でした。そのまま何事も無ければ今頃は、オリンピック一色の楽しい毎日であったことと思います。

新年気分も終わり「さあ」と動き始めた頃、何やら怪しげなウイルスが「中国で流行しているらしい」とのニュースが聞こえてきました。それからは何が何やらわからないままクルーズ客船の集団感染発生で始まりPCR検査、クラスター、自粛生活、テレワーク、一斉休校、観光施設・文化施設の閉鎖・・・など。初めて耳にする言葉や状況を理解し対応することに右往左往している間に世界中での危機が報じられるようになりました。

今では終息の見通しもつかないまま「ウィズコロナ」とか。感染ウイルスが常在する日常を自覚し、各々の裁量で感染防備の「新しい生活」を創り出すしかないようなのです。

いつまでこの緊急事態が続くのか、元の生活に戻ることはないのか、ワクチンは、特効新薬は、答えのないまま不安だけが大きくなっていきます。

日常の景色が一変し、アクリル板やビニールカーテン越しのやりとりもすでに私達は日常となりつつあります。

日本人の新型コロナ感染率や重篤率が低いことが注目されています。

私達は子供の頃から外から帰ったら玄関で脱いだ靴を揃えて、手洗いうがいは習慣として躾けられました。外と内との結界を意識する生活習慣は公衆衛生の意識に繋がり清潔な社会づくりに役立ったのだと思います。

他人とは適当な距離を置いて言葉の挨拶が当たり前でした。握手したりハグしたりの習慣は最近の若者にとっては日常の挨拶のようですが感染防備の観点からは避けなければなりません。

私達日本人は自分と同じように他人も思いやり、尊重し、されて嫌なことはしない。されて嬉しいことは率先して他人も喜ばせたい。他の生命を尊重し、和を保つ習慣をまわりの大人達を見て育ちました。期せずしてこの習慣が新型コロナ感染拡大の抑制に繋がったのかもしれません。

手洗いする水どころか飲み水にも恵まれず、幼い命が失われている国がある一方で、私達のように自然に恵まれ手洗い、入浴、洗濯が毎日の習慣にできている恩恵を感謝し、後世に繋げなければなりません。

日常のようになりつつある「グローバル化」は合理的、効率的に思えますが、この地球規模の感染病を封じ込むためには もしかしたら障害かもしれません。

過剰な情報収集に向ける意識を整理し、群れる生活から個々の生活へ、静かな思いやりを忘れずに、新しい日常を生み出すときが来ているのかもしれません。

感染拡大のため、国内は勿論言うに及ばず世界の国々がこれらの対策に右往左往・・・特に我が日本善行会の場合は、高齢者が多数をしめており、会では、その運営対策等も一苦労多いことと思います。

このような苦境時に役立たずの私のような物が役員の末端を穢すことになり本当に申し訳なく思います。しかしながら一旦引き受けました以上は、本会の事業推進に邁進する他有りません。一人の力は微妙でも皆々様のお力を結集して頑張ります。

宜しくお願い申し上げ、私の理事就任にあたっての決意の一端を申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。

善行行為者を発掘し、明治神宮にお招きしての授与式は、とても厳かで品位に飛んだ格調高いものがあり、受賞者から大変好評を得ております事は、推薦者として悦びとすることであり、今後とも積極的に発掘に努めたいと思います。

「善は愛から勇気から」と申しておりますが、最近他人の好意（善行）を受け入れない、自らも余り他人に関わりたくないというような風潮が感じられてなりません。お互いに素直になって、自然体で相互扶助の精神が培われていくこと、真の善行精神の普及振興に微力ながら理事としての職責を果たすべく努めて参りたいと思います。

新理事の紹介

理事就任にあたって

兵庫県　服部　忠彦

この度、令和二年度定時総会において理事に選任されました関西ブロック兵庫県支部長の服部忠彦です。私のような浅学非才の与太者が理事の重責を全うすることは到底出来ませんが、先輩諸氏を始め、会員の皆々様の温かいご指導ご鞭撻を賜り、その職責を至誠一貫微力ながら、日本善行会の発展のため寄与する覚悟であります。特に本年は初春以来新型コロナ症分大いに奮起し、開設した支部は瞬く間に東北・北海道では一時一番の会員数を誇るまでに発展しました。

最近の私は、専ら支部事務所の管理人に徹しており、愈々支部役職も剥いでもらうことに決まっていたのですが、二年前極めて強引に支部長を引き受けさせられてしまいました。

今回本部の事務局から理事就任のご連絡をいただき、快く受けました。老骨に再び鞭打つ所存です。

理事就任にあたって

青森県　黒瀧　信行

この度、名誉ある日本善行会の理事に選んでいただきました弘前支部長の黒瀧です。

私は、凡そ善行という名前とは誠に相応しくない勝手気儘な人生を送っておりますので、善行者たちとの交わりの中では、肩身を狭くしながら今日に至っているのが実情です。

そんな私が、昭和五十七年弘前支部設立の際、真の善行者である小野さんという方の熱心な説得とその人柄に負けて、決して善行者ではないが、善行者を支援するよりお高いところの（とウソブキながら）発起人の一人に加わりました。虚言の

ご支援のお願い

熊本県宇土支部
支部長　山下　八郎

拝啓　益々ご清栄の事と拝察申し上げます。先の熊本豪雨に際しては早々にお見舞を頂き誠に有難うございます。七月四日、豪雨に見舞われた熊本県南地域は球磨川が氾濫するなど、各地で土砂崩れや浸水被害が相次ぎ住宅被害も八〇〇〇棟を超え甚大な被害が発生しております。

新型コロナウイルス感染防止のためにボランティア受け入れを県内在住者に限っており、県南被災地はいまだに泥に覆われ道路脇には汚泥が高く積み上がり、災害ごみに姿を変えた家財道具が並ぶ状況です。

今回の熊本豪雨で日本善行会熊本県宇土支部は被害を受けていませんが善行会として支援の輪を拡げ県南被災地の中継点で役割が果たせるならと活動を始めました。

全国から衣類や食料などの支援物資が届けられており支援の心に深く感謝申し上げます。

支援物資については現地支援関係者から家屋浸水による汚れの高圧洗浄器機調達に強い要請を受けております。

つきましては各支部会員の中で不要の高圧洗浄機をご提供頂ければとお願いするところです。義援金については宇土支部が中継点として新たに高圧洗浄機を購入し被災地へ届けるようにしています。

『支援の心で再生の力を送る』どうか日本善行会の皆様のご配慮を賜りますよう心からお願い申し上げます。

敬具

訃報

去る七月一日、日本善行会元理事・群馬県高崎支部長の松本源治氏（八十五歳）がご逝去されました。

松本源治氏は高崎支部が昭和六十年に創設以来、支部役員、平成十六年からは高崎支部長として、今日までの長きにわたり善行活動と会員の増強並びに五百名余の善行者の発掘に尽力され、この間本部理事としても平成二十四年から同二十八年まで就任され、本会の発展に多大の貢献をされました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

一般社団法人 日本善行会 新役員

◇第二回理事会が六月二十八日に開催され、互選の結果、会長に勝野堅介氏、副会長に相澤、高田、山下の三氏、常務理事に石井、黒澤、島村、濱武、松本の五氏が決定した。また、名誉会長に藤田耕三氏、参与に大岩、須郷の二氏が選任された。（五十音順）

▽名誉会長　藤田耕三（元広島高等裁判所長官）
▽会　長　勝野堅介（元内閣府賞勲局長）
▽副会長　相澤克也（群馬県前橋支部長）
同　高田　修（東京都板橋支部顧問）
同　山下純雲子（東京都渋谷区支部顧問）
▽常務理事　石井將博（東京都豊島支部長）
同　黒澤　猛（北海道北見地区支部長）
同　島村弘子（群馬県・北毛支部長）
同　濱武　隆（長崎県佐世保支部長）
同　松本カネ子（栃木県宇都宮支部長）
▽参与　大岩　武（元日本善行会常務理事）
同　須郷勝雄（元青森県青森支部長）

※本会は善行精神の普及と善行の実践を通して明るい住みよい社会環境づくりにつとめております。会員会費と個人・企業・地方公共団体からの助成金により運営されております。広く会員を募集しております。